

2016/4/18

柏の景気情報（平成28年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年3月分）

○ 調査期間 : 平成28年3月28日 ~ 平成28年4月8日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	78	50.0%
建設	44	21	47.7%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	26	60.5%
サービス	36	13	36.1%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIは横ばい推移。先行きは不透明感よりやや悪化に転じる▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.6(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲4.7(同▲13.6)、製造業▲44.4(同▲50.0)、卸小売業▲34.6(同▲40.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲15.3(同△7.6)であり、22.9ポイントと大幅に悪化した。

【建設業】からは、「年度末、決算期に当たる会社の駆込み工事が多い」(電気工事業)、「オリンピックに向けての話が出てきてはいるものの、全体的な現場が少なく、今後不安な状況だ」(その他の職別工事業)、「畳小物の売上、6年目にして初めて目標達成。畳工事の受注は相変わらず。個人からは少なめ、業者からは増加」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「前年同月に比べ、駆込み受注はない。原料単価の変動は為替より取引所の相場の影響が大」(特殊産業用機械)、「先月から大きな変化はなく、お客様からの発注の動きは鈍いまま」(その他の機械・同部品製造業)、「従業員定年退職により、新規パート3名入社。正社員(男女)各1名入社。出荷量が細分化しているため、人員を増加」(その他の金属製品製造業)、「消費税が8%になってからの売上高は、回復傾向にあるが、採算ベースでは、まだまだ工夫が必要」(印刷業)、「設備はいま新しい引き合いが連続しており、量産が決まれば順次新規設備導入をしていく考え。これまでのなんでも引き受ける製造ではなく、生産も分野も特化したものにしぼり、利益率を高めていく取り組みが徐々に成果をあげつつある」(その他の金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前半は、気温の上昇にも恵まれ春物婦人衣料の動きが活発。中旬以降気温の低下で前年割れの日々が続く。紳士衣料は春物単価の低下で売上伸びず。五月人形は大きく前年を下回る。高級雑貨は宝飾・時計などの高額品が不調。食品は雛祭り・ホワイトデーが好調で前年実績を上回る」(百貨店)、「衣料品および寝具インテリア関連は売上不振となり、昨年比80%ぐらゐ。買い回りの食品、住居雑貨は、昨年並みに推移しました」(その他の各種商品小売業)、「催事商品も季節商品の注文が前年より多かった」(菓子・パン小売業)、「ホワイトデーが好調でした」(菓子・パン小売業)、「昨今の天気は、気温の高低差が大きく、産地における青果物の生育に影響を受けているようです。全般的に入荷減の単価高傾向にあります」(食料・飲料卸売業)、「柏の葉、おたかの森の人口増が売上に寄与しているが、割引セール等による集客で、来店数は多いが利益率の向上に繋がらない」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要では、北海道新幹線開業の盛り上がりは、一年前の北陸新幹線開業ほどではない。北陸は、今でもその勢いは衰えていない。宮古島の就航の便が増加し、沖縄の離島が人気」(旅行業)、「高額物件の問合せが増えています。他、一般の戸建住宅や土地の問合せも増えており、成約数も少しずつ増えています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎出店ラッシュ(競争激化)

卸小売業より、「4月には6号沿い流山に神奈川で好調なスーパーが出店してきた。5月には柏二番街の先にスーパーが出店。沼南地域には最大級のショッピングモールがオープン。その他数店が出てきます。ここ20年位の中で一番の出店ラッシュが始まっています。大きく勢力圏が変わる予感」(各種食料品小売業)、「柏市北西部では、ホームセンターやドラッグストア、スーパーがオープンし、人の流れが変わりつつある。今後の推移を見極めて努力したい」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎人件費高騰

各業種より、「賃上げについては昨年に引き続き実施する予定だが、今までの一律ではなく成果をあげた人員のみとする。雇用状況として、人出は足りない感があり募集をかけてはいるが、実際には残業などで十分対応できるレベル」(その他の金属製品製造業)、「大型店の出店により、人件費の高騰が止まらない。適正な価格帯に早く戻って欲しい」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎受注単価下落

各業種より、「低価格が定着し、改善は難しい」(電気工事業)、「施工単価が下がっている。全般的に物件が少ない状況で、今後、受注競争が激化しそうだ」(その他職別工事業)、「単価の値引き要請が増えた」(その他の金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲26.2	▲13.6	▲33.3	▲44.0	▲6.6
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
見通し	▲23.0	±0.0	▲33.3	▲34.6	▲23.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.6(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小した。

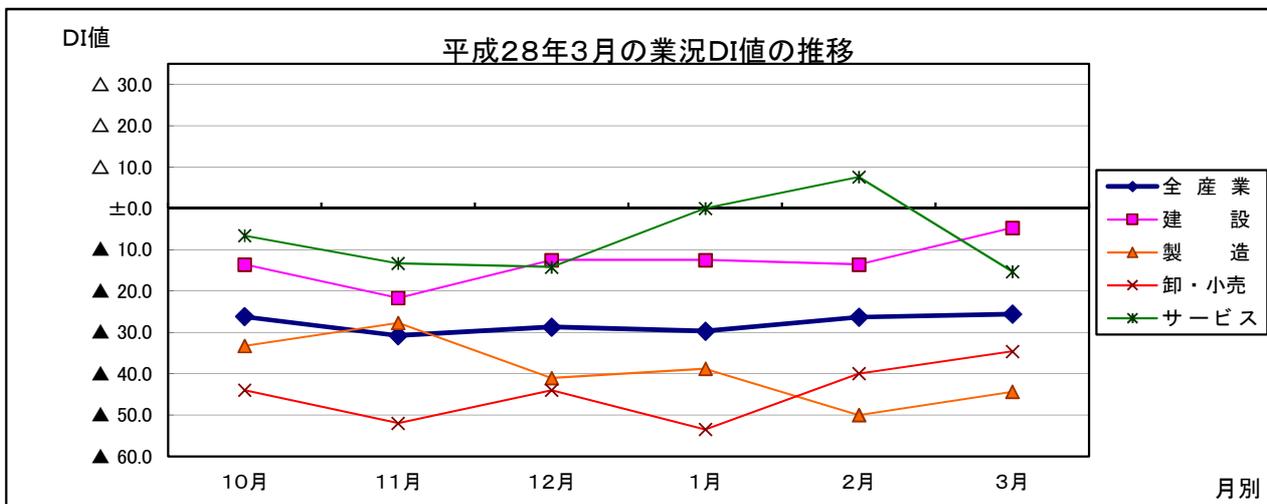
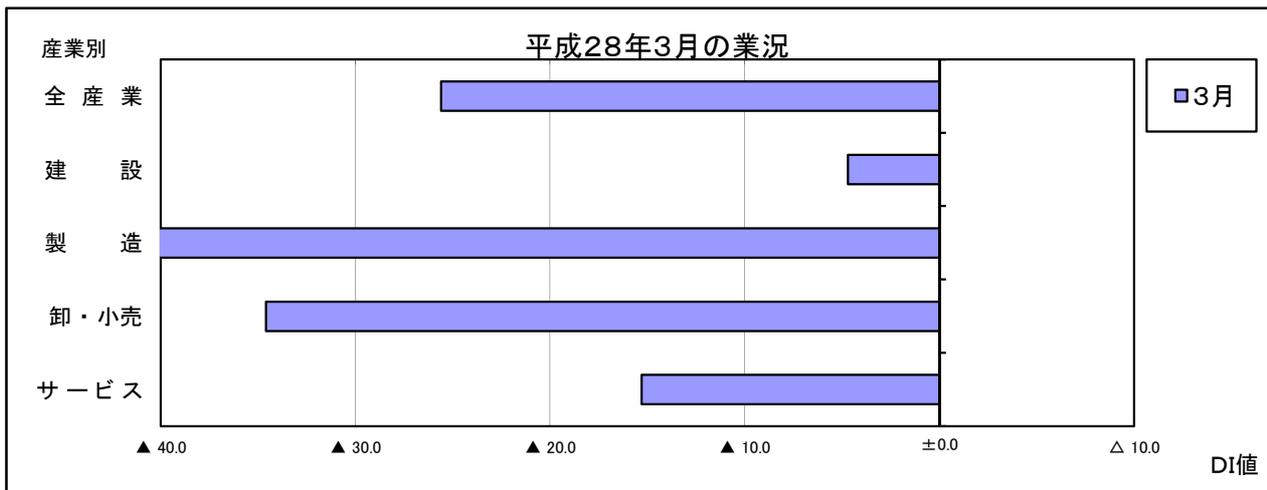
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲4.7(同▲13.6)、製造業▲44.4(同▲50.0)、卸小売業▲34.6(同▲40.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲15.3(同△7.6)であり、22.9ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.0(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が7.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲34.6(同▲40.0)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲23.0(同△15.3)である。マイナス幅が、拡大する見通しの業種は、製造業▲33.3(同▲25.0)である。

平成28年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲26.2	▲30.8	▲28.7	▲29.7	▲26.3	▲25.6	▲23.0(▲15.7)
建設	▲13.6	▲21.7	▲12.5	▲12.5	▲13.6	▲4.7	±0.0(±0.0)
製造	▲33.3	▲27.7	▲41.1	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲33.3(▲25.0)
卸・小売	▲44.0	▲52.0	▲44.0	▲53.5	▲40.0	▲34.6	▲34.6(▲40.0)
サービス	▲6.6	▲13.3	▲14.2	±0.0	△7.6	▲15.3	▲23.0(△15.3)



【平成28年3月の売上についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.1(同▲14.4)であり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

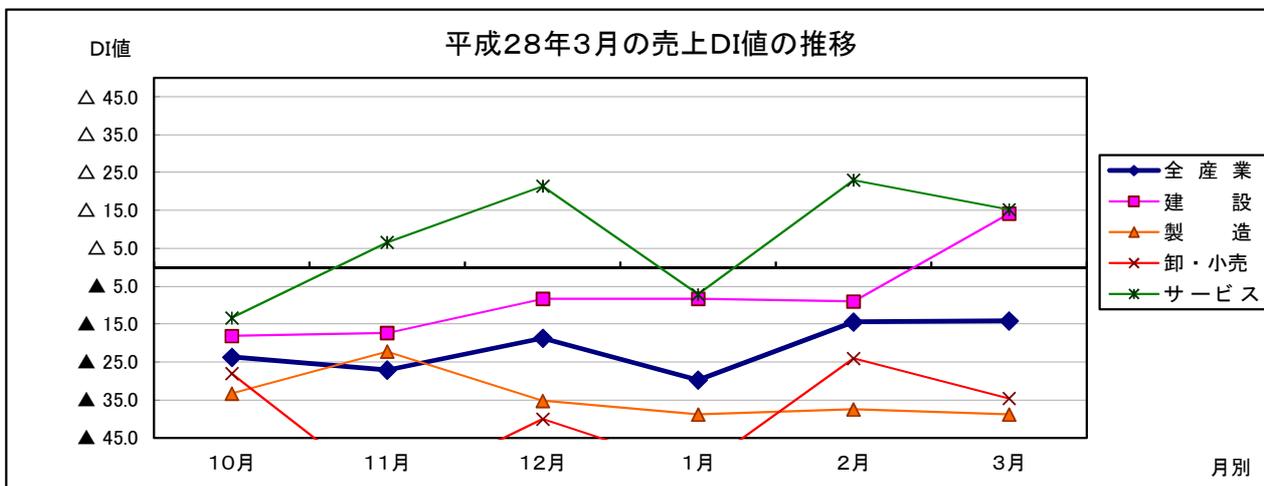
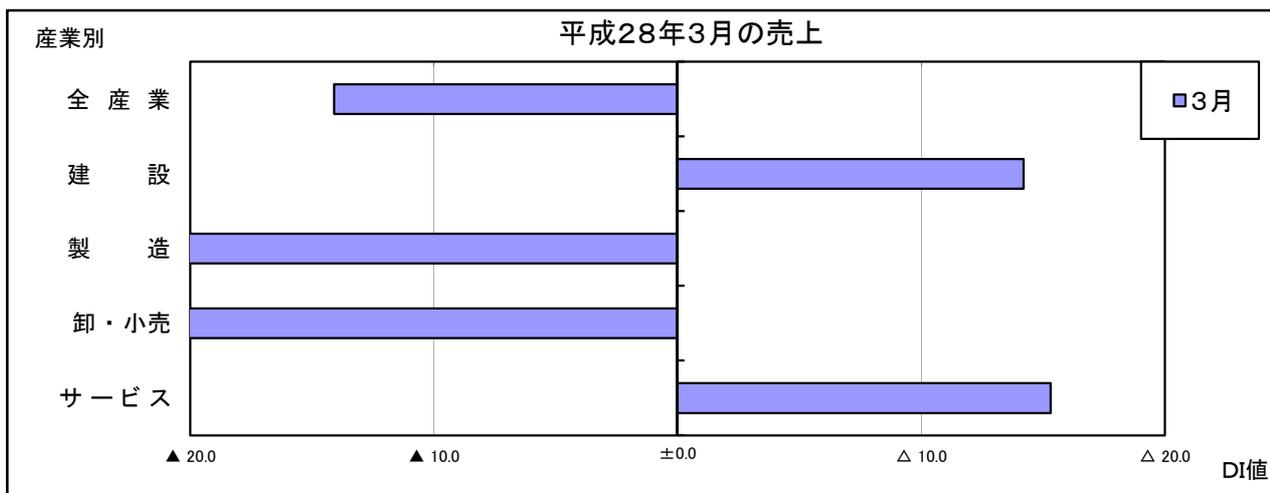
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△14.2(同▲9.0)であり、23.2ポイントと大幅に改善した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△15.3(同△23.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.6(同▲24.0)、製造業▲38.8(同▲37.5)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.1(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4.7(同▲9.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.7(同▲36.0)、製造業▲22.2(同25.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△30.7)であり、30.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成28年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲23.7	▲27.1	▲18.7	▲29.7	▲14.4	▲14.1	▲14.1(▲14.4)
建設	▲18.1	▲17.3	▲8.3	▲8.3	▲9.0	△14.2	△4.7(▲9.0)
製造	▲33.3	▲22.2	▲35.2	▲38.8	▲37.5	▲38.8	▲22.2(▲25.0)
卸・小売	▲28.0	▲60.0	▲40.0	▲53.5	▲24.0	▲34.6	▲30.7(▲36.0)
サービス	▲13.3	△6.6	△21.4	▲7.1	△23.0	△15.3	±0.0(△30.7)



【平成28年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.5(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が0.5ポイント縮小した。

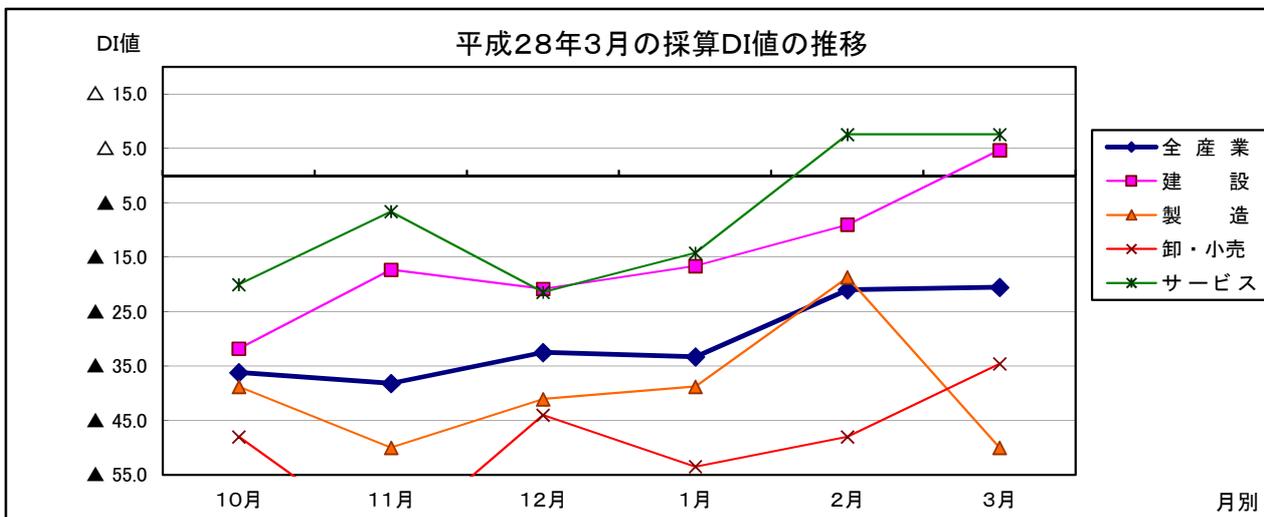
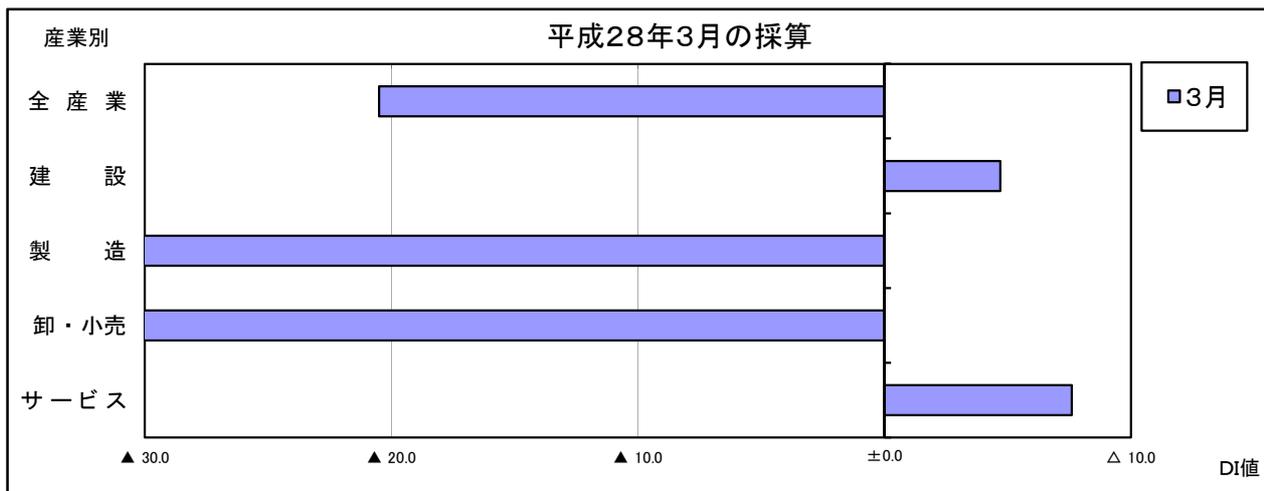
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△4.7(同▲9.0)である。変らない業種は、サービス業△7.6(同△7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.6(同▲48.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲50.0(同▲18.7)であり、31.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.4(前月水準▲19.7)であり、マイナス幅が9.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売▲38.4(同▲44.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲15.3(同△30.7)であり、46.0ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.8(同▲25.0)、建設業▲19.0(同▲18.1)である。

平成28年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲36.2	▲38.2	▲32.5	▲33.3	▲21.0	▲20.5	▲29.4(▲19.7)
建設	▲31.8	▲17.3	▲20.8	▲16.6	▲9.0	△4.7	▲19.0(▲18.1)
製造	▲38.8	▲50.0	▲41.1	▲38.8	▲18.7	▲50.0	▲38.8(▲25.0)
卸・小売	▲48.0	▲68.0	▲44.0	▲53.5	▲48.0	▲34.6	▲38.4(▲44.0)
サービス	▲20.0	▲6.6	▲21.4	▲14.2	△7.6	△7.6	▲15.3(△30.7)



【平成28年3月の仕入単価についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(前月水準▲18.4)となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小した。

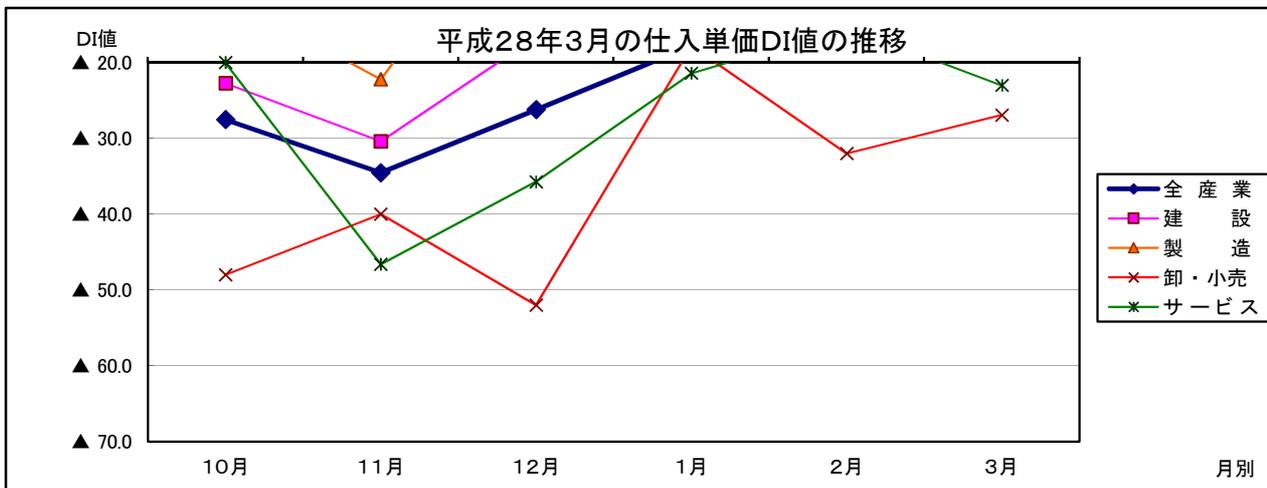
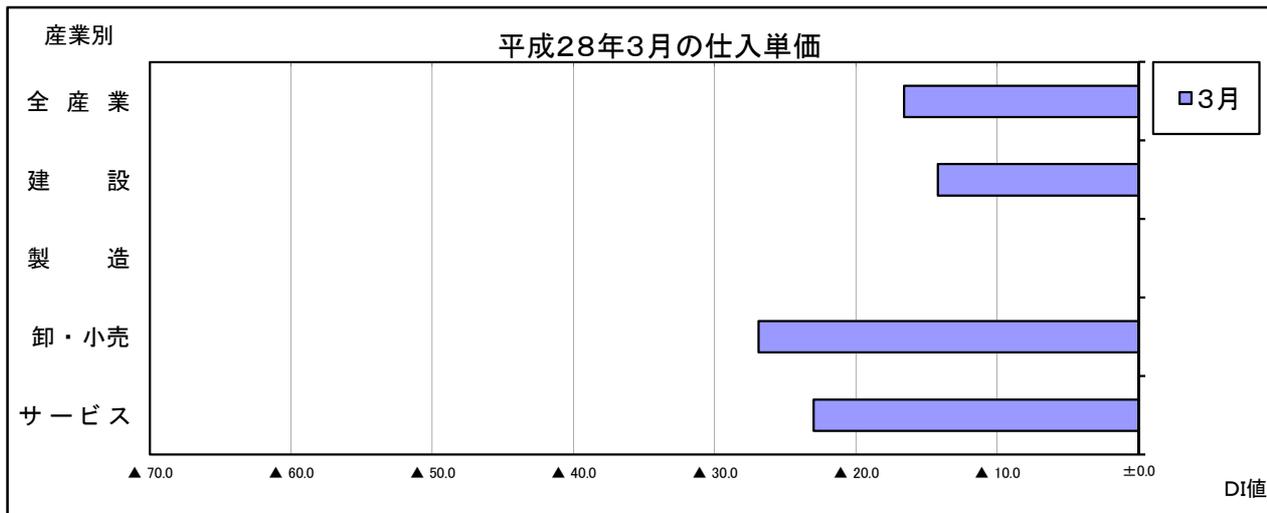
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26.9(同▲32.0)、建設業▲14.2(同▲18.1)である。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲23.0(同▲15.3)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.7(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲26.9(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲30.7(同▲15.3)、建設業▲14.2(同▲4.5)、製造業▲16.6(同▲12.5)である。

平成28年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲27.5	▲34.5	▲26.2	▲17.8	▲18.4	▲16.6	▲21.7(▲17.1)
建設	▲22.7	▲30.4	▲16.6	▲16.6	▲18.1	▲14.2	▲14.2(▲4.5)
製造	▲11.1	▲22.2	△5.8	▲16.6	±0.0	±0.0	▲16.6(▲12.5)
卸・小売	▲48.0	▲40.0	▲52.0	▲17.8	▲32.0	▲26.9	▲26.9(▲32.0)
サービス	▲20.0	▲46.6	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.0	▲30.7(▲15.3)



【平成28年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.3(前月水準△15.7)となり、プラス幅が0.4ポイント縮小した。

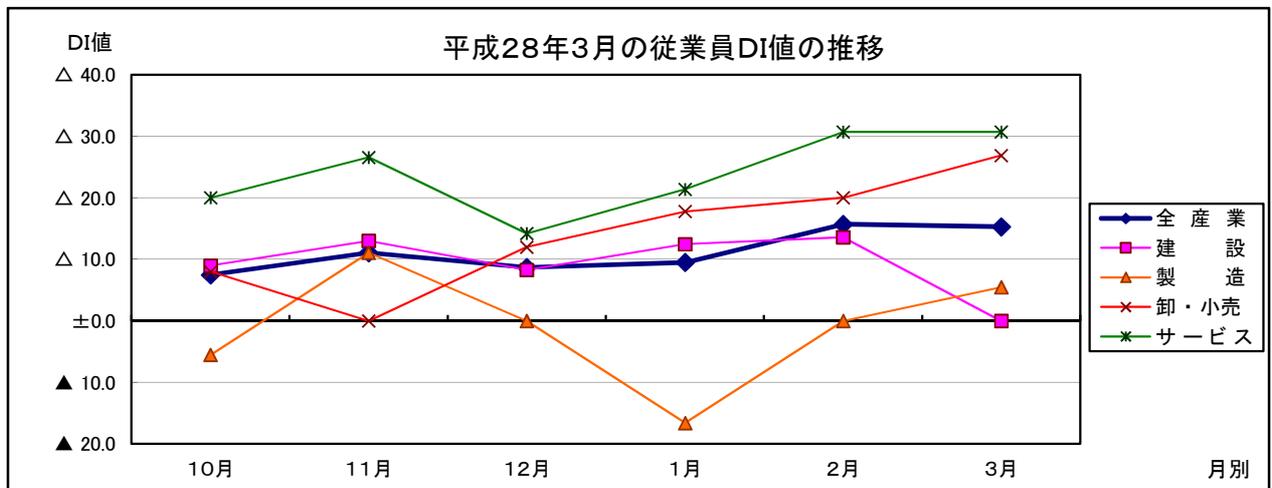
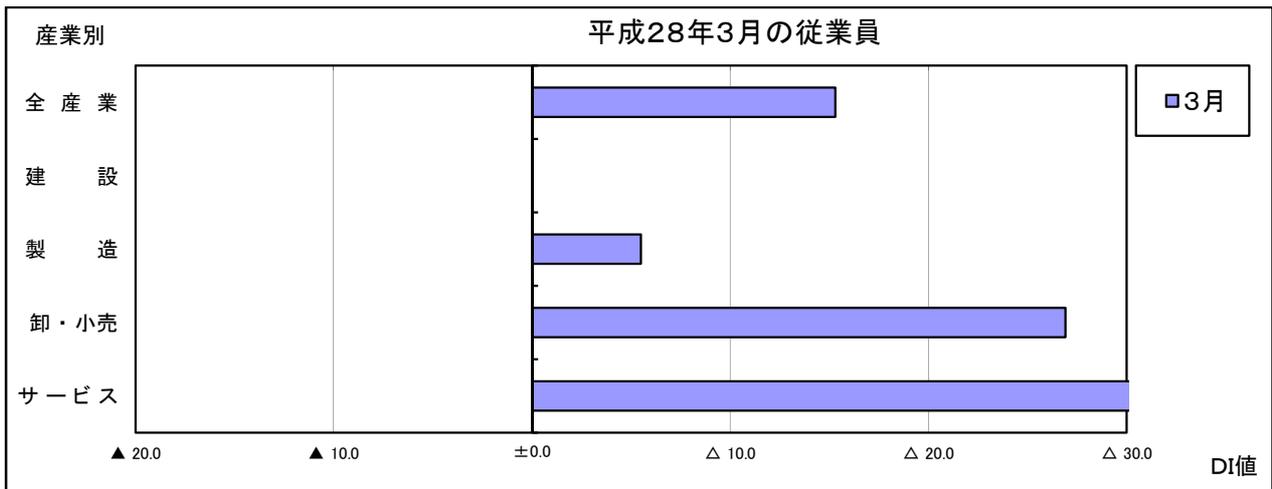
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△26.9(同△20.0)、製造業△5.5(同±0.0)である。変らない業種は、サービス業△30.7(同△30.7)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△13.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.6(前月水準△17.1)であり、プラス幅が0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業△26.9(同△20.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△30.7(同△38.4)、建設業△4.7(同△9.0)、製造業△5.5(同△6.2)である。

平成28年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△7.5	△11.1	△8.7	△9.5	△15.7	△15.3	△16.6(△17.1)
建設	△9.0	△13.0	△8.3	△12.5	△13.6	±0.0	△4.7(△9.0)
製造	▲5.5	△11.1	±0.0	▲16.6	±0.0	△5.5	△5.5(△6.2)
卸・小売	△8.0	±0.0	△12.0	△17.8	△20.0	△26.9	△26.9(△20.0)
サービス	△20.0	△26.6	△14.2	△21.4	△30.7	△30.7	△30.7(△38.4)



【平成28年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1. 2(前月水準▲11. 8)となり、マイナス幅が10. 6ポイント縮小した。

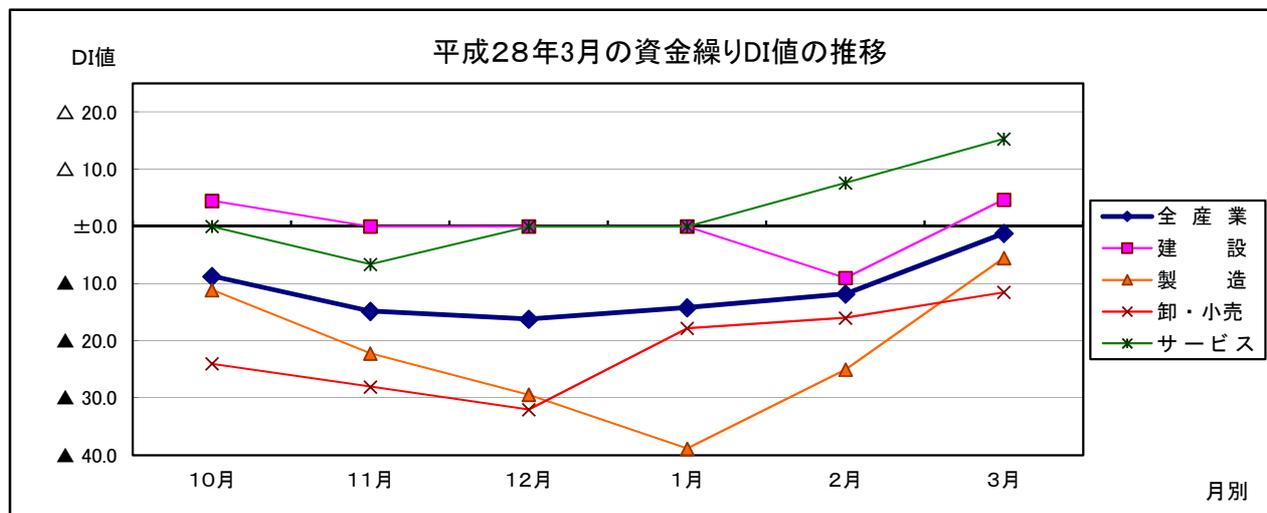
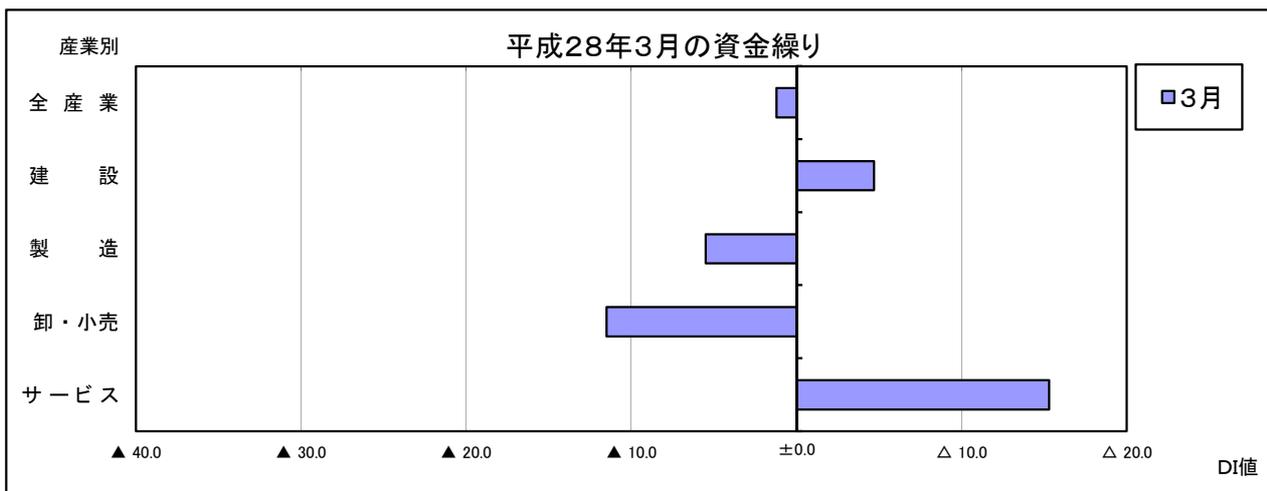
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△15. 3(同△7. 6)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△4. 7(同▲9. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、▲5. 5(同▲25. 0)、卸小売業▲11. 5(同▲16. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5. 1(前月水準▲1. 3)となり、マイナス幅が3. 8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5. 5(同▲25. 0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同△30. 7)、建設業△4. 7(同△9. 0)であり、特にサービス業では、30. 7ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲15. 3(同▲12. 0)である。

平成28年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲ 8.7	▲ 14.8	▲ 16.2	▲ 14.2	▲ 11.8	▲ 1.2	▲ 5.1 (▲ 1.3)
建設	△ 4.5	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 9.0	△ 4.7	△ 4.7 (△ 9.0)
製造	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 29.4	▲ 38.8	▲ 25.0	▲ 5.5	▲ 5.5 (▲ 25.0)
卸・小売	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 17.8	▲ 16.0	▲ 11.5	▲ 15.3 (▲ 12.0)
サービス	±0.0	▲ 6.6	±0.0	±0.0	△ 7.6	△ 15.3	±0.0 (△ 30.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.1	▲ 14.1	▲ 20.5	▲ 29.4	▲ 16.6	▲ 21.7	△ 15.3	△ 16.6
建設	△ 14.2	△ 4.7	△ 4.7	▲ 19.0	▲ 14.2	▲ 14.2	±0.0	△ 4.7
製造	▲ 38.8	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 38.8	±0.0	▲ 16.6	△ 5.5	△ 5.5
卸・小売	▲ 34.6	▲ 30.7	▲ 34.6	▲ 38.4	▲ 26.9	▲ 26.9	△ 26.9	△ 26.9
サービス	△ 15.3	±0.0	△ 7.6	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 30.7	△ 30.7	△ 30.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.6	▲ 23.0	▲ 1.2	▲ 5.1
建設	▲ 4.7	±0.0	△ 4.7	△ 4.7
製造	▲ 44.4	▲ 33.3	▲ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 15.3
サービス	▲ 15.3	▲ 23.0	△ 15.3	±0.0

【平成28年3月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	やっと暖かくなってきたので、リフォームの動きが出てきました。	リフォーム工事	一般土木建築工事業
	年度末、決算期に当たる会社の駆込み工事が多い。低価格が定着してしまい、改善するのは難しい。	年度末、決算期 駆込み受注増 工事の低価格化	電気工事業
	施工単価が下がっている。全般的に物件が少ない状況で、今後、受注競争が激化しそうだ。オリンピックに向けての話が出てきてはいるものの、全体的な現場が少なく、今後不安な状況だ。また、社会保険加入の徹底対策の為の書類作成の管理依頼が増え、事務処理の人手も足りない状況が続いている。	施工単価下落 受注競争激化 オリンピック 先行き不安 社会保険事務増 人手不足	その他の職別工事業
	畳小物の売上、6年目にして初めて目標達成。畳工事の受注は相変わらず。個人からは少なめ、業者からは増加。	畳小物好調 畳工事増加(業者)	内装工事業
製造業	銀行借入がし易くなったような感がある。補助金により、設備投資がし易い内容になっているが、大きな設備投資にはまだ足踏みしている。	銀行借入 設備投資	印刷業
	前年同月に比べ、駆込み受注はない。原料単価の変動は為替より取引所の相場の影響が大。	駆込み受注減 為替相場の影響	特殊産業用機械
	先月から大きな変化はなく、お客様からの発注の動きは鈍いまま。	受注低迷	その他の機械・同部品製造業
	従業員定年退職により、新規パート3名入社。正社員(男女)各1名入社。出荷量が細分化しているため、人員を増加。単価の値引き要請が増えた。	人員増加(新規採用) 値引要請	その他の金属製品製造業
	消費税が8%になってからの売上高は、回復傾向にあるが、採算ベースでは、まだまだ工夫が必要。成り小さくても、中身は豊富な会社継続が理想である。	売上回復傾向 不採算	印刷業
	賃上げについては昨年に引き続き実施する予定だが、今までの一律ではなく成果をあげた人員のみとする。雇用状況として、人出は足りない感があり募集をかけてはいるが、実際には残業などで十分対応できるレベル。生産出荷在庫は生産を必要数量に押え在庫を減らし、計画生産で出荷するようになりかなり効率UPしている。設備はいま新しい引き合いが連続しており、量産が決まれば順次新規設備をしていく考え。これまでのなんでも引き受ける製造ではなく、生産も分野も特化したものにしぼり、利益率を高めていく取り組みが徐々に成果をあげつつある。	賃上げ 人手不足 生産効率向上 引き合い増加 設備投資	その他の金属製品製造業
前半は、気温の上昇にも恵まれ春物婦人衣料の動きが活発。中旬以降気温の低下で前年割れの日々が続く。紳士衣料初は春物単価の低下で売上伸びず。五月人形は大きく前年を下回る。高級雑貨は宝飾・時計などの高額品が不調。食品は雑祭り・ホワイトデーが好調で前年実績を上回る。	天候不順 春物衣料好調(前半) 五月人形不調 高級雑貨不調 雑祭り商品好調 ホワイトデー商品好調	百貨店	

【平成28年3月業種別業界内トピックス】

卸小売	衣料品および寝具インテリア関連は売上不振となり、昨年比80%ぐらい。買い回り品の食品、住居雑貨は、昨年並みに推移しました。(3月度アンケート調査を実施したところ、50代以上が63%を占める結果となり、女性が80%以上と多く、商品に対する不満より、休憩する場所、食事の場所、トイレなど、設備サービス面に不満を感じているお客様が多かった事がわかりました。)	衣料品・寝具・インテリア不調 食品・生活雑貨好調	その他の各種商品小売業
	大型店の出店により、人件費の高騰が止まらない。適正な価格帯に早く戻って欲しい。	人件費高騰	その他の各種商品小売業
	4月には6号沿い流山に神奈川で好調なスーパーが出店してきた。また、そのスーパーは近く16号沿いの柏市内にもう一店舗出来てきます。5月には柏二番街の先にスーパーが出店。沼南地域には最大級のショッピングモールがオープン。その他数店が出てきます。ここ20年位の中で一番の出店ラッシュが始まっています。大きく勢力図が変わる予感。既存店はどう他と違いを出さるかが焦点となる。	競合店(スーパー等)出店ラッシュ 競争激化	各種食料品小売業
	催事商品も季節商品の注文が前年より多かった。	催事商品好調	菓子・パン小売業
	ホワイトデーが好調でした。	ホワイトデー好調	菓子・パン小売業
	昨今の天気は、気温の高低差が大きく、産地における青果物の生育に影響を受けているようです。全般的に入荷減の単価高傾向にあります。今後は花見シーズン、歓送迎会などの催事が多くなる季節になってきます。産地情報と消費需要の情報をしっかり得ながら安定供給して参ります。	天候不順 入荷減・単価高(青果物) 花見シーズン・歓送迎会	食料・飲料卸売業
	昨年秋以降の値上がり商品について、実績に基づき商品を仕入れたが、サイズにより在庫となっている。また、新規開拓分も売上増に寄与したが、在庫備蓄品もあり、資金繰りが厳しい。柏の葉、おたかの森の人口増が売上に寄与しているが、割引セール等による集客で、来店数は多いが利益率の向上に繋がらない。柏市北西部では、ホームセンターやドラッグストア、スーパーがオープンし、人の流れが変わりつつある。今後の推移を見極めて努力したい。	資金繰り悪化 人口増(柏の葉・おたかの森周辺) 来客増・利益率横ばい 競合店(スーパー等)出店ラッシュ 競争激化	その他の飲食料品小売業
サービス業	個人需要では、北海道新幹線開業の盛り上がりは、一年前の北陸新幹線開業ほどではない。北陸は、今でもその勢いは衰えていない。宮古島の就航の便が増加し、沖縄の離島が人気。ヨーロッパはテロの影響で低調も、夏休みは好調。安・近・短(香港・台湾・韓国)が、女性同士やカップルに人気。法人需要では、旅行決定が間際化している世の中とは逆に、訪日外国人観光客増加により航空座席や宿泊の予約が半年前に埋まってしまうことが多く、団体旅行の手配に苦戦することが増えてきている。	北海道新幹線開業 北陸地域人気 沖縄(離島)人気 ヨーロッパ低調(夏休み好調) 近隣国(香港・台湾・韓国)人気 インバウンド増加の影響	旅行業
	高額物件の問合せが増えています。低金利の効果が出ているのでしょうか。他、一般の戸建住宅や土地の問合せも増えており、成約数も少しずつ増えています。	問合せ・成約数増加	不動産管理業
	新年度を向かえ、今年こそオンリーワン商品の市場展開が目標。下請け業を脱出しなければ、生き残り無しと考えている。	オンリーワン商品	ソフトウェア業

◎出店ラッシュ(競争激化)

4月には6号沿い流山に神奈川で好調なスーパーが出店してきた。5月には柏二番街の先にスーパーが出店。沼南地域には最大級のショッピングモールがオープン。その他数店が出てきます。ここ20年位の中で一番の出店ラッシュが始まっています。大きく勢力図が変わる予感。

各種食料品小売業

柏市北西部では、ホームセンターやドラッグストア、スーパーがオープンし、人の流れが変わりつつある。今後の推移を見極めて努力したい。

その他の飲食料品小売業

◎人件費高騰

賃上げについては昨年に引き続き実施する予定だが、今までの一律ではなく成果をあげた人員のみとする。雇用状況として、人出は足りない感があり募集をかけてはいるが、実際には残業などで十分対応できるレベル。

その他の金属製品製造業

大型店の出店により、人件費の高騰が止まらない。適正な価格帯に早く戻って欲しい。

その他の各種商品小売業

◎受注単価下落

低価格が定着し、改善は難しい。

電気工事業

施工単価が下がっている。全般的に物件が少ない状況で、今後、受注競争が激化しそうだ。

その他職別工事業

単価の値引き要請が増えた。

その他の金属製品製造業

平成28年3月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.6に対し、「CCI-LOBO」が▲23.6で柏の方がマイナス幅が2.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.1に対し、「CCI-LOBO」が▲14.9で柏の方がマイナス幅が0.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.5に対し、「CCI-LOBO」が▲17.7で柏の方がマイナス幅が2.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲24.2で柏の方がマイナス幅が7.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.3に対し、「CCI-LOBO」が△15.6で柏の方がプラス幅が0.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.2に対し、「CCI-LOBO」が▲11.7で柏の方がマイナス幅が10.5ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が良く、建設業、卸小売業、サービス業では10ポイント以上良い。

平成28年3月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 25.6	 ▲ 4.7	 ▲ 44.4	 ▲ 34.6	 ▲ 15.3
CCI-LOBO	 ▲ 23.6	 ▲ 17.8	 ▲ 18.4	 ▲ 41.8	 ▲ 14.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.1	 △ 14.2	 ▲ 38.8	 ▲ 34.6	 △ 15.3
CCI-LOBO	 ▲ 14.9	 ▲ 16.4	 ▲ 12.5	 ▲ 25.6	 ▲ 7.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.5	 △ 4.7	 ▲ 50.0	 ▲ 34.6	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 17.7	 ▲ 18.3	 ▲ 17.6	 ▲ 28.3	 ▲ 10.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.6	 ▲ 14.2	 ±0.0	 ▲ 26.9	 ▲ 23.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.2	 ▲ 27.1	 ▲ 13.1	 ▲ 32.6	 ▲ 22.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 15.3	 ±0.0	 △ 5.5	 △ 26.9	 △ 30.7
CCI-LOBO	 △ 15.6	 △ 18.3	 △ 7.6	 △ 19.8	 △ 22.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 1.2	 △ 4.7	 ▲ 5.5	 ▲ 11.5	 △ 15.3
CCI-LOBO	 ▲ 11.7	 ▲ 10.2	 ▲ 9.7	 ▲ 22.7	 ▲ 8.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：平成28年3月15日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が2969企業にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、足踏み状況 先行きも不透明感強く、慎重な見方が続く

3月の全産業合計の業況DIは、▲23.6と、前月から▲0.8ポイントのほぼ横ばい。原材料価格や燃料費などの下落の恩恵が続く中、好調な観光需要による下支えのほか、設備投資にも持ち直しの動きがみられる。他方、人件費上昇や受注機会の損失など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化に加え、新興国経済の減速、不安定な金融市場など、取り巻く環境の厳しさがマインドを鈍らせており、中小企業の業況感足踏み状況となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲22.1(今月比+1.5ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。春の観光シーズンに向けた需要拡大や設備投資の持ち直し、補正予算・来年度予算の早期執行などへの期待感が伺える。他方、新興国経済の減速やマイナス金利政策を含めた金融市場の不透明感もあり、先行きが見通しづ

らい中、中小企業においては、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、春闘の結果を受けた人件費の動向と価格転嫁の遅れに対する懸念などから、慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「技術職不足が深刻化する中、人件費の上昇に歯止めがかからず、採算は悪化傾向にある」(一般工事業)、「業績改善が進んでおり、賃上げを行いたい。ただし、先行きが不透明であるため、具体的な金額は決めかねている」(防水・塗装工事業)、「足元の受注は鈍いが、来年度から新庁舎や新設される学校の校舎建設など大型事業が始まるため、今後に期待できる」(建築工事業)

【製造業】「花見シーズンやゴールデンウィークを前に、飲食・宿泊業などからの引き合いが伸びている」(調味料製造業)、「部品等の仕入先から値上げを求められている一方、納入先からの値下げ要求もあつて、経営は厳しい状況」(電気計測器等製造業)、「新規事業を展開する

ため、継続的な設備投資を計画中」(航空機部品等製造業)

ため、継続的な設備投資を計画中」(航空機部品等製造業)

【卸売業】「暖冬の影響により落ち込んだ売上の回復を図るため、春夏物衣料の販促活動を強化している」(衣料品卸売業)、「北海道新幹線開業に伴い、観光関連の需要増が期待できるため、付加価値の高い新商品開発に注力する」(食料品製造・卸売業)、「景気動向に不安感はあるものの、海外向けを含め、受注が好調に推移している」(家庭用刃物等卸売業)

【小売業】「消費者の節約志向は一段と強くなっている。売上を増やすため、イトインスペースの設置など、店内改装を検討中」(食料・飲料品販売店)、「気温の上昇とともに春物婦人服を中心に売上が伸びた一方、これまで堅調だった高額品に陰りが出始めている」(百貨店)、「中国をはじめインバウンド需要が堅調。また、経費削減のため、電力自由化にあわせて、契約の見直しを行っている」(化粧品販売店)

【サービス業】「受注は例年並みを確保できているが、エンジンニア不足を補うため外注せざるをえず、利幅は小さい」

(ソフトウェア業)、「収益圧迫が懸念されるが、パートの確保やモチベーション向上のため、時給を50円引き上げた」(飲食店)、「稼働率が7割程度で安定しており、空調設備の修理や駐車場の増設を実施。4月以降はWiFi導入などネット環境の整備を進める」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲17.5	▲17.1	▲17.4	▲21.8	▲23.1	▲10.7
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
3月	▲23.6	▲17.8	▲18.4	▲25.9	▲41.8	▲14.6
見通し	▲22.1	▲26.1	▲14.8	▲25.9	▲33.8	▲14.2